

文露叢

負

御家

正徳二年

九

庫文閣内		和	
一五〇函	三三二四一號	番號	和 33141
二〇架	一〇冊	冊數	10 (9)
		函號	150 165

193

御家



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



文獻最卷九

正德二年壬辰

正月元日二日六日五日五半揃儀式如例

一日伊勢御名代 京極大膳太夫代 前田伊豆守

京都御使 織田能登守 代品川豊前守

日光十七日 大沢遠江守 代横瀬駿河守

同廿日 松平周防守 代土井甲斐守

一六日寺社御礼如例

近衛太閤御方御樽者被遣 上使畠山下総守

松姫君御疮瘡酒湯御掛二付 上使秋元但馬守

以テ御祝被遣加賀守若狹守一モ 御者一種宛被

遣

一十日四ツ時上野三御佛殿一行列ニテ 御参詣

一十一日例年ノ通御具足餅御祝

御役替

御持弓及御先手二百石加増山田奉行御目付御使番ヨリ

御先手二百石加増山田奉行御目付御使番ヨリ

御目付御使番ヨリ

道奉行ヨリ

桐間組及相間御番ヨリ

御連歌

御連歌

玉堂や家々満ちる春の色

長子と山と成り玉去御

民の知得らるしりも耕し

箕ノ由りておのふ

昌億 昌純 紹北

昔のむと岩月の思ひを

長きそ夏の空や知

明ぬあふあつても戸の月小

きれりあつちあつち

里くの秋も昔はあきや

片曇りあつちあつち

夕の光らるる川

一五日来ル未年

諸可被遊旨今日出仕ノ面々

一十七日紅葉山ノ御社参

一廿一日願ノ通聲養子被仰付

独峰次男 昌純 昌億 昌長 清親 通章 昌築 仍民 執筆

其阿

信四

昌長

清親

通章

昌築

仍民

執筆

日光御社参御用被仰付 井上河内守

日光御社参御用并日記改御用 久世大和守

日記改御用并道中筋見分御用 水野对馬守

御目付鈴木老彈守 日堀田源右衛門

一万石以下川村知行改上御勘志村忠兵衛

勘定御石原半右衛門 関兵左衛門

同神谷二郎兵衛 勘定御箱葉与一右衛門

同長坂孫七郎 同八木清五郎

一廿三日日光道中見分御暇金五枚時服三羽織

御作事曲瀧信濃守 御普請水野对馬守

奉行金五枚時服二羽織 御目付大久保甚右衛門

一廿四日増上寺御佛殿 御参詣

一廿六日桐間番及中余丹波守格 晴冷藤木筑後守

願通智養子松平对馬守 三宅備前 三宅兵庫内改記松平

日光御暇 金三枚 片山三七郎 服部源八郎

表御巻川 右筆飯高孫太夫 上原文太夫

日記肝煎日鈴木彦八郎 山中弥兵衛

日記方 日吉松忠三郎 神原三郎左衛門

三浦彦四郎 大橋藤藏 岡本弥十郎

奥御右筆表ヨリ 浅井兵四郎 三宅平次郎

玉置次右衛門

一廿八日初子御礼時服五銀馬代 大和守 久世源五郎

健目御礼 金五枚時服三山城守子 本多兵庫

一月一日日光御社参御用 大目付 横田備中守

御勘定 萩原近江守 御目平巴市右兵衛門
奉行 河野勘右兵衛門

一七日 道奉行 安次右兵衛門組 小笠原久右兵衛門

一八日 當五月 嚴有院殿 三十三回御忌御法事御用

阿部豐後守 御成之前諸向之勤方其向々々々
寛治元年日光山

書出ハ可被 御願ハス

二月

井ノ河内多敷ノ世方和子殿 御書付
ノ字進之ハ前代初之為出ルルハ全能
不仕カシ 是如クモ 御書付ノ内ハ
以テ之ノ内領ハ書付ルルハ之方為ノ
御願ハス

二月

河内勘右兵衛門
字是市右兵衛門
横田俊中

一十一日 今度参向ノ公家 殿御馳走

勅使 庭野前大納言 黒田隠岐守

仙洞使 藤谷前中納言 堀大和守

田満院宮 津怪土佐守

一乘院宮 松平未女正

代浅野土佐守 池田内通次

徳川長福殿宮参、付 上使鳥居伊賀守ヲ以被遣

鯛一折 紀伊中納言殿ハ二種二荷 長福殿ハ

一十二日 五月 嚴有院殿 御法堂御用

寺社奉行松平对馬守 日 赤川出羽守

大目付仙石丹波守

御勘定中山出雲守

五月御法夏御用

御右筆飯高七兵衛

本目木工右衛門

新村伴之丞

一十四日夜子刻青山ヨリ出火五六町焼ハ寅刻鎮

一十五日初ノ御礼時服三銀馬代相摸守土屋外記

一十六日領通隱居遠山和泉守家督同伊子守

連歌師如例御祝及賜之里村昌億可昌純

同紹也同仍民同昌築浅草日輪寺

龜井戸大鳥居信田鎌倉小別當神明西東刑尸

烏炙山田宮内批筆比良喜和泉

五月御法夏御用譜方河村弥兵衛本間清九郎

御賄及伊藤新兵衛御勘定荻原源左衛門

御代官清野与右衛門日平世次郎右衛門

漆奉行石井次太夫日小野田吉兵衛

一廿一日御目見賜御一字号宣澄松平庄五郎

任侍徒玄羽守元服御礼

真御太刀備前貞光代金二十枚綿二百把

右御礼相海御孟頂戴御腰物金束國光代并領

初ノ御礼時服六金馬代掃部井伊又五郎

時服三銀馬代对馬守養子松平内記

長門守養子坂田圖書

一廿三日越中守跡式加友左膳賜之為御普代並席

一廿五日已刻祢津御社参午下刻還御

一廿六日野洲壬生ノ所替一万石加増鳥居伊賀守

江州水口ノ所替加友左膳

役美骨折候ニ付於御座間御目見羅紋二間時版三
完

岡田將監 舟越五郎右兵衛門 戸川玄蕃

三枝右近 板倉修理 青木右衛門、

仙石兵庫 大久保集人 近友宮内

溝口式戸 与力、銀五枚、同心、金一両宛

一廿八日四時上野淨光院殿長昌院殿兩御佛殿、御

參詣九時半時 還御

松平播磨守内室益姬君昨夜死去水戸中納言殿、

上使小奈对馬守

一廿九日於奥御能日光准后於西湖間御餐忘

一晦日跡目大勢被仰付

遺物御刀 金三池代三所物 色繪大根代金三 加友越中守

御臺所、伊勢物語 一条園白 兼良公筆

隱居ニ付御刀大和志津代金十枚和泉守夏遠山友山

寄合加友肥前守屋布被召上替地根津辺ニテ賜

此月風病人多

一三月二日願通養子被仰付

松平伯耆守養子 信濃守 佐野主膳 初三左兵衛門

松平志广守養子 河内守 新庄頼母 養子

九鬼豊前守養子 主計及男 建部弁之介

一六日御幕奉行 加友又太夫跡 安友勘兵衛

川舩奉行 拓植善九郎 依病氣 今朝倉勘九郎

一八日五月上野御法事 勤番

文珠樓 板野駿河守 仁王門前 板倉近江守

中堂表口 本多遠江守 同裏口 西尾隱岐守

犀風坂 松平下野守 車坂 酒井石見守
清水口 内藤主殿及 新清水口 堀田備後守

一十一日 公家衆御對顔 上使等如例
一十二日 御馳走御能 御返答并公家衆御暇
一十三日 禁裏御所方 庭田前大納言

高野前大納言 藤谷前中納言

銀百枚綿百把 正親町三条大納言

同百枚時服十 梅溪三位 西大路三位

同五十枚時服六

甘露寺及弁 山科中將 東坊城女納言
同三十枚時服六 勸修寺弁 萩原民了太補

右ノ外地下持領物如例

参府御礼銀五百枚時服三十 尾張中納言殿

同御家来時服三銀馬代織田周防守 阿部縫殿

津田兵了 銀馬代 奥田主馬 富永九門 熊谷與兵衛

千村數馬 萩原甚太夫 中根新六

一十四日 五月御法夏中上野火之番 近友九門

横山數馬 松平与右丞門 固部兵庫

一十五日 御舟子 御目付ヨリ 三測縫殿少
同日 禁裏へ勅答ノ義向後御返答ト唱候様ニト被
仰出

一十六日 駿府御代官 御勘定 鈴木小右丞門

飯浴御暇 上使井上河内守

銀三百枚綿二百把宛 日滿院御門跡

一乘院御門跡

銀廿枚時服五日滿院佛地院權僧正

時服五一一条院從僧成身院法印權大僧都

銀十枚日滿院西坊法印 小守大藏々

川村内務今里村將監 田染内匠

四宮主水

時服四 醫師辻村宗仙

銀十枚一乘院内侍原利了々 高天大藏々

二条寺家来主法眼 内侍原民了々 中沼玄蕃允

中川主計 喜多坊駿河

時服四 吉園法橋宗仙

一十八日 日滿院一乘院西門跡濱御殿、御越二付

上使水野監物ヲ以御捨重一組宛被進

一廿一日 御三家并松平大學乃於奥御能拜見於西湖

間御餐忘孺子十卷宛被進大學乃八大嶋十及并

領之御三家ヨリ捨重御看献上

一廿二日 国元御暇上使大久保加賀守 紀伊中納言殿

一廿三日 紀伊殿於西湖間御餐忘於御座間御礼御馬

三足賜之

時服十銀百枚於御前御馬被下 安友帶刀

時服六羽織 水野志广守 加納平次右衛門

同三羽織 秋田一郎左衛門 豊嶋半之丞

官地幸右衛門

尾張殿土産以使者御冠棚御香臺雞御香炉献上

一廿五日願ノ通新田一万石分地松平大和守

弟門主馬

一廿六日大坂加番被仰付 土井甲斐守

永井播磨守

五月參向公家衆御馳走

勅使 戸沢上野介

仙洞使 木下肥後守 女院使 毛利護岐守

妙法院殿 加茂遠江守 青蓮院殿 京極若狭守

代九鬼丹後守 池田内面及 杵和泉守

御書院番、御番入

大嶋肥前守組 小長谷喜八郎

松平主計及 阿部四郎五郎 井戸教馬

松前伊豆 守組ヨリ 松平次郎左衛門 大久保忠右衛門

大路保津 松前頼母 高木傳七郎

大御番小十人小普請ヨリ廿四人御納戸へ番入

駿府石垣御普請御目付 御使番 細井左次右衛門

一晦日依病氣御役御免寄合被仰付

大目付折井保路守 物及溝口源兵衛

定

一所用ヨリ 乃中使来々 而 所命中人馬ノ御

人馬多少 亦之少也 亦之少也 亦之少也 亦之少也 亦之少也

用之 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御

自新ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御

亦度お拂 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御

一所用ヨリ 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御

乃中使来々 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御 亦人馬ノ御

新主人より新主人より入りし
 外に後後迄お遠掛りし人馬割修し老同内場
 におおしきお田を喰ひしは
 新主人より新主人より新主人馬割修し
 一切の同内場
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より

一
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より

一
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より

一
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より

一
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より
 新主人より新主人より新主人より

一 外近宮御名代

前田隱岐守

廿日御名代

稻葉丹後守

代太田備中守

御祭祀奉行

松平志广守

户田泠路守

代植村右兵卫门佐

上野長昌院殿御佛殿修覆奉行

御作事奉行

柳沢備後守

御目付小宮山庄九郎

一 三日飯浴御暇

上使大久保加賀守

織田能登守

銀五百枚綿五百把

近衛大閤御方

跡目大勢被仰付

五月新女院使御馳走

一 柳因幡守

一 五日土佐守跡式被仰付

一 柳民刀

一 六日丑ノ時濱御殿へ渡御 御臺所ニテ渡御暮六時

還御

一 七日近衛大閤御方近々御参駕ニ付 上使同部越

前守織田能登守

黄金百枚紅白紋波綾百反書棚一

朝鮮国ノ書持下候。付金一枚時服二宛（大坂在番）

稻葉駿原田平兵衛（水野是奥津善八郎）

一 十一日松平甚九郎養子跡式被仰付

時計間御番ニ内田与八郎

官下司誤来向後可改由

木下右兵卫门佐初太夫 松平造酒正 水野大監物

水野右兵卫门佐 酒井左兵卫门佐初尉

一 十五日公家殿御對顔御暇ノ節向後御普代殿ノ通

登城可仕由 相馬讚岐守

御普代席被仰付

松平隼人正

松平主馬

養女永井備後守へ婚禮御礼時服五間部越前守

十一日 嚴有院殿三十三回御忌御法事書付五通

於中堂拜礼ノ次

侍従以上埋國ノ内 四品埋國ノ外上ヨリ一疊目

諸大夫 同二疊目 布衣 同三疊目

每官 同四疊目 以上

免

二王門是の清水口奉坂屋風飯新清水口ヨリ内

一玉持大名ヨリトシヨリ 侍以人授筆持一人

兼筆持一人去又以人ヨリヨリ此用並多ヨリ

兼筆持ヨリヨリヨリヨリ又ヨリ一切侍

但宿務ヨリヨリハヨリヨリヨリ

以月日

御香奠献上ノ覚

一 三十万石以上 白銀廿枚

一 十万石ヨリ廿九万石迄 同十枚

一 五万石ヨリ 九万九千石迄 同五枚

一 一万石ヨリ四万九千石迄 同三枚

一 卅万石以上ノ嫡子 同五枚

一 十万石以上ノ嫡子 同三枚

一 九千石以下ハ或二枚或一枚

以上

免

一 一万石ヨリヨリ 御香奠献上ノ覚

御香奠献上ノ覚 御香奠献上ノ覚

御香奠

一 一万石以上
... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

一 俵高、深帷子半
... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

... 俵高、深帷子半

中奥御小姓持被出大久保
 加賀守渡之在国兵八名代也
 大久保加賀守今度御判物御朱印御用相勤候二付
 御懇意ノ上御手自御腰物行光代金廿五枚并領
 同御褒美御腰物了戒代金十六枚安藤右京亮
 同御腰物末左代金十三枚 松平備前守
 万石以下ノ御朱印可被下由ニテ先祖頂戴ノ御
 朱印寫指上ケ置
 一廿一日同前御褒美 銀二十枚時服三 林大学次
 銀二十枚時服三 林七三郎 同百助
 金三枚時服三 御右筆組又 飯高一郎兵衛
 金三枚時服二宛 御右筆 首菱又右永門
 三宅貞右永門 大谷木安左永門
 今日參勤御礼御暇大勢

一廿二日辰下刻上野御参詣午后刻 還御是廿日依

雨天也

一廿三日去ル十四日 女院御所崩御ニ付普請鳴物
 今日ヨリ廿五日迄停止依之京都ノ御使ニ可被遣
 由 横瀬駿河守 代織田讚岐守
 大坂ノ御使可被遣由御小姓組番又 皆川山城守
 五月十五日御暇金十枚賜之

覺

一諸大名參勤之節召連ノ人数ノ奉元和元年ノ御
 定ト有之ハ如今年已來召連ハ江戸詰ノ人数次
 増ニ相增至人並諸家中之者不勝手ニ成成ハ由
 二同召以且亦諸國居城居所亦受主ノ人数ト
 減之ハ奉参似不可然被 思召之旨自今以後系

一八日五ツ半時上野御佛殿、御參詣ハツ時 還御

一 九日御法夏相渡惣出仕
御法事相渡二付御腰物 吉平代 狩領 阿部豊後守
今日公家殿門跡方御对顔 御贈經御礼 英御暇於席
之有御餐心

銀三百枚時服六 園前中納言
銀二百枚時服六 西洞院前中納言

清聖前宰相

銀百枚時服六 小路中務太補 山本宰相

銀百枚時服四 慈光寺極薦

銀十枚時服四 近名撰政殿使者進後刑了大補

伏見殿津田甲斐守 右 堀川 友木下野守
使極殿 生嶋主膳正 使堀川 富小路官内口

大覺寺宮 衣笠刑了之 聖護院 雜務法印

西坊法印 宮使 一条院 二条法眼

勸修寺宮 使者山口伊賀守

高野殿前大納使 永嶋右近 柳原一位 吉川玄蕃

高野殿前大納使 伊織 殿使 野村主馬

日野殿前大納使 佐戸根敷 廣橋中納 野村主馬

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

高倉前中納 松山内藏 鳥井前中 本多左京

一 条大政谷川正之丞
所使者
銀十枚時服四
仁和寺宮使者
高橋大藏

時服三
蓮花光
院使者
板本式
藥人

銀十枚宛
繪所了環
大佛師左京

銀十五枚
大經師道泉

日五枚
日道以

滯浴御暇
上使大久保加賀守織田能登守
白銀千枚宛
妙法院御門跡
青蓮院御門跡

日斷
上使呂川豊前守
時服銀五百枚
久我殿

一十三日
駿府加番被仰付
京極寺岐守
立花澤正
松平數馬

上野御法夏役人御褒美賜之

一十五日
大坂御城代
土岐伊子守跡
内後地伊守改

豊前守
叙四品
右段大坂御城中
被仰渡
付御小姓組番
及皆川

志广守
被遣
御普代席
松平信濃守
任職御礼
三束三卷
遊行上人
入院御礼
一束一本
浅草海禪寺

左京ノ御方
御廣布番
久松太郎左衛門
病氣御免
跡大久保
路守組
坂部弥右衛門

二九御廣布番
及飯室与兵衛
守組御免
御社参
大正小次郎
一十七日
四ツ時
紅葉山御宮
御能拜見御料理被下
一十八日
日光准后御養志
於真御能有之
上野出家中

分限愷改

大目付 松平石見守

一十九日 戸ノ間詰 豊前守 堀内 友伊子守

一廿日 紅葉山三御佛殿 御参詣

御用被仰付 呂不相知

御目付 天野 弥五左 兵部 加茂右近

御徒目付 四人 梶田市左 兵部 成瀬又八郎

御小人目付 八人 御使ノ者 八人 黒鍬廿人

一廿三日 水野肥前守 養子 頼之通 松平越中守 三男伊

織被仰付

小普請方 大井新九郎 跡 頼母組 太田伊兵衛

一廿五日 紀州 新御番 土屋 頼母組 御書院

上使御暇 金十枚 番及 三浦肥後守

初子御目見時 服五金馬代 尾張殿

同四金馬代 御舎 同喜子之進

一廿七日 跡目大勢被仰付

一廿九日 大御番組 横地半外 病气御 小見山又七郎

御書付出

万石以下ノ面々 知行如以村ノ書付 當年九月限

安茂右京亮 松平備前守方ノ差出候様ニ向々

可被相違候以上

五月

一六月一日 御役替

大目付 寄合ヨリ 中川 泮路守

大坂町奉行 五百石 加増 兼山甲 鈴木 飛彈守

御先手 小姓組ヨリ 跡目 御 神尾 左兵衛

兼山甲斐守叔浦武兵衛依病氣御免

一二日縁組

松平丹後守左女 三浦備後守 松平伯耆守女 松平丹後守

小出佐治守女 加藤貞之 宇田大隅守女 新中左衛門

松平少将守女 大塚玄蕃 松平少将守女 松平少将守女

大井新右衛門女 松平九郎守 乃文親貞女 松平少将守女

山内安左衛門女 林百由 喜柳惣兵衛女 同友部守

石川物部守女 安友治部 松平新右衛門女 宇田守

細井友左衛門女 妹 今松 松平 頼子被仰付

一三日跡目大勢被仰付

下屋布被言上替地増坪賜之 松平伊賀守

郡内領見分御暇金二枚宛 御代官小見山長右衛門

飯塚孫次郎

一四日大番小十人小普請ヨリ 御腰物方八人番入

御小姓組戸田肥前守組畠山左源太年寄候迄御奉

公相勤候二付 御番御免御褒美金二枚賜之

駿刈田中引渡 御使番黒川与兵衛

御小姓組大里土佐守組固部縫殿

御馬御用被遣由 佐倉 加茂勘四郎

府中 西川清左衛門 中山勘兵衛

小普請吟味役

五十表御加増御徒目付ヨリ 飯嶋惣左衛門

一七日御小姓組与次 朽木 土佐守組 金田能登守 改周 防守

一十一日浅草大護院任職 愛岩下真福寺

病氣御免 御鑓奉行 土屋市之丞

大坂御目付代 御使番 鳥居權之丞

御小姓組井上讚岐守組山岡孫七郎

一十二日御鑓奉行土屋市之進跡御先手御先手ヨリ小倉半左衛門

御先手西丸左衛門跡御手院五郎兵衛

一十五日根津權現祭祀御用寺社奉行松平对馬守

町奉行松野壹岐守御勘定奉行中山出雲守

隱居家督大勢有之

御書付出

嘉祥御礼之前布衣以下之寄合五百石以上八登

城五百石以下之分八不及出仕之間被得其意可

被相觸以上

一十六日嘉祥着座被仰付 松平出羽守

堂上方御用相勤付布衣被仰付

上方御代官小堀仁右衛門

一十八日依病氣御役御免 御徒及井戸新兵衛

一廿一日三九御番二本道 松平主計及組峯岸春庵

一廿三日諸御番所へ大目付ヨリ相渡書付

御門番

一大手 給人廿人 七五人 足軽百人

一 中间五十人 百七十五人

一 立節乃其外正月八朔 御成玄猪ノ節給人四五

一 人相増足怪ハ兆番之相番五十五人モ相増ハハ

一 内様田 給人十人 侍五人 足軽五十人

一 中间三十人 又九十五人

一 西丸大手 人数内様田与同前

一 外梯田 給人五八人 足程廿五人
 中間廿七人 七十人
 一 神田橋 人數外梯田十日 常盤橋 給人四人
 一 和田倉 半藏口 足程廿七人 中間廿三人
 一 馬場先 竹橋 田安 一ッ橋 給人四人
 一 吳服橋 鍛冶橋 數寄屋橋 日比谷御門
 幸橋 人數馬場先十日 相勤可被申以
 右之通隨分人少 辰六月廿三日
 上屋布 辰六月廿三日 屋布次地屋敷 分所并坪數出付

一 他家某地 地蔵多 是亦出付

六月

屋布改御用 大目付 中川澄路守
 御普請奉行 嶋田佐渡守
 御目付 天野弥五左衛門 渡辺外言
 一 廿四日 權僧正 浅草大護院
 湯嶋根生院 中野宝仙寺
 一 廿五日 御役替
 御先手 保科主税跡 堀田源右衛門
 御目付 御使番ヨリ 大嶋因幡守
 御納戸及ヨリ 仙波七郎左衛門
 御小姓組 戸田備後守組ヨリ 稻葉多宮

御使番

松平伊勢守組

曾我平次郎

石川備中守組

木下清兵衛

寄合ヨリ

久留嶋敷馬

御徒及

并判山城守門組

佐々木五郎右衛門

西丸御裏

御門番及御手洗

御手洗

御手洗

御手洗

伴野惣右衛門

大坂引拂

借銀三百貫目

土岐伊与守

中山内記

繼目御礼

時服五金馬代

水戸殿家老

中山内記

一七月一日御役替

御納戸及

仙波七郎左衛門

跡山名左兵衛

御勘定吟味

御加増

高五百表

松置弥太郎

因断

萩原左衛門

上野惠恩院

権僧正ノ御礼

一束一卷

一束一本

円靈仙院

役者并院家御礼

一束一本

円靈仙院

西丸御切手番

相伴惣右衛門

御番ヨリ

横山五郎右衛門

一六日跡目大勢有足

病氣御免

御目付

根来平左衛門

一十一日願ノ通隠居

細川越中守

家督同主税及

一十二日所替

総州古河

本多中務大輔

日向延圀

牧野大学

三別吉田

松平伊豆守

三別苧屋

三浦壹岐守

正僧正被仰付

小池坊

愛宕下真福寺任職

京六波羅

普門院

厂間席被仰付

牧野大学

新規被召出御番入御切米二百五十表宛被下

中村權之丞

田中左膳

久松左中

平野久米之進 井上平藏

下田町柿崎村別崎村下田御番所附被仰付先規ノ
通深津八郎右衛門支死被仰付

至前御書付出上屋布ノ下取ノ屋布抱屋布
取ノ地ノ御付案文ノ無恐ノ被取出ノ事細ノ事
ハ列紙ノ入ノ以テ

七月九日

吉光 海内丸屋

将田佐御守

中川澄路守

案文望紙 認可被申候

是

一 中屋發

取付

何ノ何百坪

一 下屋發

取付

口

一 抱屋發

年貢地年貢化

取付

誰ノ誰

但親録者家人家来ニ取付ノ者有之ノ事

書入ノ事

一 取ノ地

取付

何ノ何百坪

右ノ取ノ地取付ノ地ノ事ハ及ノ家来ノ事

以テ取ノ事取付ノ事親録者男女ノ事

持ノ事

年号月日

誰ノ誰

何人取付

是

一 抱屋發ノ事

前ノ事取付ノ事及ノ事取付ノ事

能家能團ノ事取付ノ事及ノ事取付ノ事

右：少波而得いひ

年号月日

以人名

唯 延列

是

一 前より此職人町人等々所用するは此後而
 乃より而して被作事の惣領に此類の少用お知
 中の職人町人等々より多の地味あり受用し物
 亦亦新領に被改此の最善に任一切受用を
 して其の事候に若くハ不中事子に任し
 多に望く中甘誓何任し及及に多被取之に物
 一 支取し事考職人町人より多の地味受用し物
 少おし方お知いあり今以後少くは
 ありハ多交沖寄懸しとす所は可なり

一 此後而少用形少職人町人等々平生に所用する
 一 少用し身て此方より多の地味に老多し所用する知
 老と若と形に若くハ中甘誓に中お知いり今
 以在形に老ハ一切、少有許言は此後子細に
 少し、少用形に又ハ支取し乃、お知い又
 事

辰七日

松平左門

一 此後而少一族を被役取人立返り少
 乃より方より形に少の地味に少方再一族取人考少
 多あり知、少の地味に家考、若若志し少の地味
 一 族を被役しとす所は可なり

高也... 辰八月三日

辰八月三日

松平左門將 松平小豊次

在又左門御使候... 辰八月三日

辰八月三日

松平左門先 松平左助

右目... 辰八月三日

辰八月三日

松平左門家老 高井八兵衛

去冬... 辰八月三日

一して是法公 六傍業し 若而和之 半所し 此二自
人之乃と 其孫子 八年有し 却志を 以て物と 之
身一人し 故に 之を 家内し 隆初と 其と 出に 以て
子善し 有るに 何れも 誰れ 定て 其の 中 有るに 一
左の 亦や 海に 其し 子細 多し 其知 以て 以て 定右
其つと 之れ 八の 接し 考也

八多 忠將 於 由 一 孝

親ハ 多し 其 亦く 是流 以て 色 以 依て 一 孝 故 年 有
進部 尸 其 志 也

左の 家 朱 田 迫 忠 七 谷 中 大 藏 役 亦 其 志 也
以 三人 御 接 也

南 太 帝 在 其 子 南 平 八 辰 十 七

右 十 五 年 其 志 報 於 之 伊 勢 也

日 人 子 本 庄 鉄 次 郎 辰 十 五 年

右 大 久 保 七 守 家 朱 初 辰 令 在 其 子 養 子 他 志 也
鉄 次 郎 伊 勢 接

以 也

辰 代 鉄 中 守

今 度 知 行 而 百 姓 有 辨 仕 以 之 付 以 之 事 金 後 以 知 之
五 年 之 秋 知 行 而 能 乞 接 是 以 役 人 川 井 友 左 衛 門 首
子 之 子 年 貢 相 坊 中 有 以 之 一 つ 之 事 而 姓 之 辨 仕 以 之
免 許 之 由 治 多 以 之 以 之 事 於 之 辨 仕 以 之 以 之 友
名 之 三 人 死 能 以 之 中 有 以 之 仍 有 百 姓 在 一 回 之 在 前
と 死 也 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之
其 事 以 之 既 之 百 姓 有 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之
中 有 以 之 六 之 人 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之 辨 仕 以 之

此の事今も初めて其お尋ねお知の者も
しゆつハ之れも其の事其の事其の事
るこい初め之れも其の事其の事其の事
新の事其の事其の事其の事其の事其の事
少の事其の事其の事其の事其の事其の事
御設被 百放中波 仰付也

辰八月十二日

右於水野監物宅若年寄列座監物申渡之丹波守及
居屋布家作トモ可指上ハ替地追テ可被仰付ノ由
御目付河野勘右衛門仙波七郎左衛門相越播戸守
丹波守小普請入被仰付急度遠慮可仕旨勘右衛門
七郎左衛門ヲ及申渡之
右ノ書付為心得小普請方ノ面々見置ハ様ニト於

殿中御目付ヲ以テ被申渡

一十九日米倉丹後守跡式嫡大膳ニ被仰付

一廿五日新御番組及山名左兵衛跡新御川崎次左衛門

大御番組及長益傳七郎病氣御田邊忠四郎

所々引渡

右河番御使 木下清兵衛井上護岐守組 山岡傳五郎

延岡日 久留嶋教馬 酒井因幡守組 丹羽五郎左門

吉田日 倉橋内面井上護岐守組 榊原采女

荻屋日 曾我平次郎 鈴木能登守組 松平九八郎

一八月二日 御殿勘定組及

上方組 志村忠兵衛 園東組 稻葉与一右衛門

右代組及御藏奉小出加兵衛 平勘定 石原半右衛門

戸ノ間席 阿部氏

人者吟味被仰付 平右兵衛門町名主平右兵衛門

加賀町 名主平四郎 湯嶋名主六右兵衛門

花町 名主与兵衛 雄子町 名主市左兵衛門

右五人 柳原豐嶋町六右兵衛門會所 平吟味有之

一四日當春南部遠江守御預之弓場段右兵衛門病

死付死骸見分奥別八戸御徒目付被遣金千兩

御傳馬四疋賜之 近後八郎右兵衛門 米野清兵衛

一五日去ル廿六日ヨリ 所々藏々米油炭等買置御吟

味卜之戸町与力十二人同心廿四人被仰付

一七日御小姓兵三百石宛御加増

新見伊子守 一柳玄蕃及 阿尸出雲守

一 柳生主水任播磨守

一 九日來ル十二日大五郎君三回忌御法夏於傳通院

執行御改名号理岸院殿

小石川傳通院後任 新田大光院

大光院後任 小金東漸寺

東漸寺後任 増上寺一膳 靈鑑

一十日奥州筋高札御用登足 御徒原田与一右兵衛門

曰 宮川源外 御小人目付四人 吏ノ者四人

一十三日病氣御免

御徒及 設乐善左兵衛門 小十人及三浦五郎左兵衛門

御代官 定配 勘定 鴻作左兵衛門 久下後十郎

万石以下領地村改 平勘定 石川傳兵衛

一十四日御役被召放丹波守八屋布被召上小普請入

小普請奉行 間宮播磨守 竹田丹波守

御役替 相間番及 御小姓ヨリ 建部志广守

御徒及 相間組及 助太夫跡御小納戸 戸田助太夫

小十人及 御納戸及 御新左衛門跡 伊与田新左衛門

御納戸及 御新左衛門跡 小笠原主馬

二丸廣布番及 御新左衛門跡 浅香傳左衛門

御材木奉行 御勘定ヨリ 江守傳十郎

江戸橋廣小路 二千四百坪根津權現御旅所

賜ノ

一十八日伊沢播戸守 日組京極主計日組井出左門

右於水野監物宅御目付河野勘右衛門加友右近

立合被申渡左門養子乱心付元返申度旨

京極主計ヲ以播戸守一相逢候知勝手次第可相

返由差込其後七月御用番大久保長門守一播戸

守申上候 上一毛不相伺自分ノ指忌御大法ヲ

背以反不届被 思召以右養子左門方一呼返シ

以振被 作渡主以後乾之通又元返シ以振

被 仰渡以依之西人義不調法之取計御大法背

以付逼塞被 仰付以左門義願ノ品不調法

付逼塞被 仰付候旨

一廿日大坂引渡 御小姓組番及 大罡土佐守

一廿一日御役被召放重逼塞 御教寄屋及 熊井宗伴

御茶道被召放逼塞 御教寄 秋山順節 伊沢久億

同遠慮 中嶋又甫

一廿二日三州吉田橋御普請奉行寄合 木原因幡守

御小姓組 西山十右衛門 御徒 久保田平茂

一廿三日録組 田村下録守女 分部熊之介

子授子

第... 知村... 辰八月

辰八月

一廿五日御徒目付被仰付内十四人御徒ヨリ

表火番宮守友十郎 日上 杵山助九郎

紅葉山 渡辺源左兵衛 松前伊久保田十九兵衛

大久保 都筑又左兵衛 佐々木五郎 各務三右兵衛

春日内 近友十左兵衛 日上 石川浅右兵衛

稻生次郎 柴山権九兵衛 日上 柴山忠兵衛

免助右 馬場弥五左兵衛 四谷川半 永田文右兵衛

本多又 高倉仁左兵衛 土屋敷 矢部源外

新庄織 飯田市左兵衛 柴田三左 神田平太夫

丹羽組 北爪又兵衛 菅沼織 杵浦忠兵衛

薩洲日置郡串木野ト申所ヨリ五里程沖ハ七月十

七日酉刻白帆ノ異国船一艘相見ハ乾ノ方ハ乗行

不相見候翌十八日右ノ所ヨリ四里程西ヨリ田村

ト申知ヨリ三里程沖ニ異国船碇ヲ卸夕ニ体ニ相

見候付昨日ノ船夕ニハト鹿兒嶋ノ警固段々見

分ノ支度仕候ハト毛風西強ク難計ニ遲滞ノ内翌

十九日午刻出帆乾ノ方ハ乗行帆影毛不相見候由

薩广守ヨリ注進

一廿七日家督被仰付

一九月一日御役替 火番及 水野 板倉筑後守

御書院番及 板倉筑後守 跡 石川備中守

一所城系和今年破船多、少日今知船多、故改古印、
う法台、少御是、多、少、深、く、少、入、所、
多、以、少、中、少、
定、
多、
水、
多、
所、
友、
少、
之、
為、
船、

多、
一、
取、
多、
有、
可、
代、

辰八月

七月八月中国并道中筋信濃岩城其外諸国大风雨
八月十八日夜中大風雨宇治川筋洪水伏見町中水
入在方大分破損今度木津川大水二、于京川八水女
少大和路大水二、于木津川水力増、由

一六日於御座間大坂御暇 御馬時服二十

御黑印下知 御手自御腰物 内後豐前守

一七日願ノ通隱居 松平越中守 家督 同因幡守

五千表配分二男 同三郎外

山城国淀松平丹波守領八月十八日大風雨十九日

洪水城内多門石垣崩家中不殘水入大破高二万四

千三百石余其外品損毛流死七人損牛五疋

五步内東海道義濃同日大風雨

八月九月西国四国中国大風雨

一十一日萩原近江守御役被召放寄合被仰付逼塞ノ

後八重ノ可被仰付旨於鳥居伊賀守宅被申渡

一十二日南部信濃守改大膳亮 上覽二付月次之御礼

来十五日神田明神祭礼

毎之由向後三明神祭礼有之年八十五日之御礼
不被為 請以右之旨可被相觸

九月十二日

一十四日酒井備後守跡式嫡右近被仰付

願ノ通御役御免御臺所及 足田勘左兵衛

大番組及 知久七郎兵衛 小笠原彦九郎

金地院後任 本多因幡守組 札西堂

江戸崎文念寺後任 増上寺伴及觀徹

今日増上寺御参詣相延

一十七日紅葉山御参詣少々御風氣被成御座候二付

御延引隨分控々御夏表向二テ毎御波汰

一廿一日座頭中へ御書付

是

駿府加番御暇 御風氣故御目見無之

時服四羽織 京極壹岐守

時服三羽織 立花彈正 松平敬馬

逼塞御免 伊波播磨守 京極主計 井出左門

一廿七日金引替御用 平岩若校守

日光御成ノ節御修覆 御用 大久保大隅守

御切米御張帛百表ニ付五十四兩

琉球国中山王尚寧ヨリ薩州ノテ以便者献上

龍延香 三十袋 純子二十卷

八重嶋煎海鼠二連 泡盛酒三壺

御臺所ノ官香二十把 色縹子三十卷 泡盛二壺

御不倒御機嫌何生花一桶槽重一組御香一種

井伊掃部次

生花一桶槽重一組宛老中間部越前守亦多中務

大輔

槽重一組宛 若年寄中

御留守居大久保淡路守与力石黒源次郎屋布ノ内

居申渡辺柳軒卜申穿人下谷池ノ端ニ町屋布ヲ取

持其屋守ヲ切殺候故坪内能登守方更ノ上ニ

源次郎^二柳軒^一 西人揚座敷ノ入

一廿八日月次ノ出仕有之知 公方様女々御不倒

程^一御様体^二候^一 氏女御催被遊^一故為御養生御

礼御請不被遊候由於席^一老中被申渡

去廿五日大坂御城内後豊前守五岐伊与守交代御

一十月一日出仕有之知 御機嫌御快然併為御養生

御表ノ 出御毎之今夜玄猪ノ御祝^一被相止候由

被_二仰渡候御内々_一御祝有_二殿中在合面々_一

御祝被_レ下由

御役替

御勤定奉行

菟原近江守跡御普請

水野对馬守改因

御普請奉行

水野对馬守跡

伊勢平八郎

御持及

浅野左兵衛跡

舟越五郎右兵衛

改左

定火消

舟橋五郎右兵衛跡

岡部兵庫

改左

佐渡奉行

菟原近江守跡

神保新五郎左兵衛

御舟手

天野普請方跡

石川源兵衛

二条御藏奉行

御役料百表

奈佐清太夫

被_レ召出御切米二百表賜_レ之

嶋田幸菴

公方様御不豫_二付称津_一始方々_二御祈禱有_二旨

一四日_一广间御誥_二四五日_一同置可被_レ伺御様嫌由

根津権現祭礼十一月十一日卜被_二仰出_一

此间穿屋ノ目明不_レ残死罪_二成_一

昨日松平若狭守付御様嫌御樽重献上

御不_レ例段々御快然ノ旨誥_二矣芙蓉间其外諸役人_一

老中演説

一六日_一関白職近衛拱政殿御辞退八月廿八日_一勅許九

条殿_一関白宣下之由

一七日_一秋元但馬守以御書付大久保大隅守_一被_レ仰

相列少田原

右小田原省八大磁箱根迄馬継乃_レ控も在_レ河

名根_二海_一乃_二新_一乃_二人_一乃_二夜_一乃_二先

年_一乃_二代_一乃_二人_一乃_二燒_一乃_二乃_一乃_二死_一乃_二傷_一乃_二考_一

之々々後高玉砂降山也。田畑も荒れ、村々も
人々も苦痛も、少くも傷、以て名、おろして、雁も
雁も、入用也。之々々、及新河の也。連、之々
身、以後、所、故、之々、只、今、と、年、之、り、年、不
一、一、年、之、年、之、百、表、定、行、り、

互列三嶋宿

右三嶋宿、宿、所、と、了、延、乃、以、得、も、在、河、海、乃、
難、而、之、所、今、人、事、被、入、用、也、多、及、新、河、の、也、連、
之、身、月、今、以後、乃、所、故、一、一、年、之、年、之、百、表、定、
行、り、

佐別所本宿

同恒井宿宿
右、本、宿、人、確、水、降、り、前、在、之、也、之、中、河、乃、之、也、之、難

而、之、之、乃、之、之、了、延、も、幸、く、人、鳥、凡、之、お、故、入、用、也
及、新、河、の、也、連、之、身、月、今、以後、御、故、所、之、り、
也、之、之、中、河、乃、之、也、海、乃、之、也、所、故、之、之、之、り、一、
年、之、年、之、百、表、定、行、り、

辰十月七日

一七日御座間御用

御目付 間宮頼貞

御堀御用

御目付 稻葉多宮

佐渡奉行西人芙蓉間席被仰付

河野勘右衛門

神保新五左衛門

通塞御免

松平和泉守

同老岐守

同石見守

一十日 公方様昨夜御様嫌御勝不被遊夜中老中羨

者番無毛登城

城今日ヨリ

老中若年寄御城泊り有

忌御免登城

大久保甚門守

同加賀守

紀州へ上使奏者番高木主水正被仰付紀伊殿急。

御参府候様被仰付十一日登足
逼塞御免 屋代越中守 松平左門

遠慮御免 萩原近江守 間宮播磨守 竹田丹波守

一十一日十二日十三日御様嫌伺惣出仕御罷八十三

一十三日御役替 掃部次老中列座上意ノ趣被申渡

御目付御徒及三宅大学同弓稻生次郎左衛門

新御番 佐橋左源太 中奥ヨリ 中根半十郎

御徒頭守組肥前永田弥左衛門

酒井因幡守組ヨリ 飯田善右衛門

一正徳二年壬辰十月十四日曉 公方様薨御御遺骸
増上寺へ被為入旨御遺言假御位牌

淨岳院殿遵蓮社清譽廓然大居士正二位

勅號 文昭院殿贈正一位大相国公

今日惣出仕ノ如於御黒書院下段掃部次老中若老

中出座 公方様御養生不被為御叶今曉薨御被遊

候 鎬松君へ御相續被遊候不相替御奉公可出惜

候 御幼君ノ御夏ニ候間別テ可勵御忠節ノ旨被

御置候尚又 御書被差置候間拜聞可仕旨掃部次

被申渡之 御遺書白木三方ニ載林七三郎奉讀之

不肯之身

東照宮之御統を承_レて_レこゝろに_レあり_レ政事

あり_レ 御徳ニ嗣_レん_レる_レを以_テ心_をこ_めて御_を承_レて

こゝろに_レあり_レ 御徳ニ嗣_レん_レる_レを以_テ心_をこ_めて御_を承_レて

こゝろに_レあり_レ 御徳ニ嗣_レん_レる_レを以_テ心_をこ_めて御_を承_レて

こゝろに_レあり_レ 御徳ニ嗣_レん_レる_レを以_テ心_をこ_めて御_を承_レて

本堂裏口 石川近江守 良源院

同火之番 戸田土佐守 清光院

友枝若狭守 源流院 諏訪主殿 德水院

永井修理 源壽院

京都大坂紀州御書置被遣 上使 齋使 津田外記

十八日登足 薨御以後紀州早使御奏者番高木

主水正

京大坂駿府伏見上使

井上讚 石川三右衛門 大里土曾根源菴

落髮 旨御遺言ノ由 間部越前守

落髮 並用 上様被爲附ノ由

大沢右衛門督 宮原刑尸太補 堀川兵尸大補

落髮 御小姓 間部隱岐守 稻生阿波守

村上市正 間尸路守 一柳玄蕃久

河野信濃守 本日讚岐守 中根大隅守

御小納戸 酒井宗右衛門 五十幡八右衛門

竹本宇右衛門 五十嵐市十郎 建部彦四郎

細井友左衛門 加友長三郎 小笠原頼母

鈴木百介 赤川与右衛門 窪田弥十郎

蜂屋左兵衛 村田十郎右衛門 舟橋半右衛門

鍋松君 上様卜可奉唱之旨

十五日 十六日 惣出仕

御目付中 十六日 被申渡 十七日 並出仕

十八日 万石已上 十九日 万石已下

金銀之御遺書

被 仰出候趣

上古以来我々の金銀を生むに事なく故に多く
ありしは初利より少く少くし年々世の人借く
取らざるありし物なり 東照宮御治世に
其の七年に及んで天運は所ありしは
感しつる色に及りありし 宣山一時に
めて金銀を生むに事なくの故に
た子利をばうむこれをして云
しつと津是くいのあを我々の
銀と取むべきありし年より
こを又我々の金銀も少くし
こありしは皆是 東照宮に
くを宣山七年に及んで海軍
二年に及んで少くし海軍より
も少く故に我々の金銀は万兩
ありしは初利より少く少くし年々世の人借く
取らざるありし物なり 東照宮御治世に
其の七年に及んで天運は所ありしは
感しつる色に及りありし 宣山一時に
めて金銀を生むに事なくの故に
た子利をばうむこれをして云
しつと津是くいのあを我々の
銀と取むべきありし年より
こを又我々の金銀も少くし
こありしは皆是 東照宮に
くを宣山七年に及んで海軍
二年に及んで少くし海軍より

も少く故に我々の金銀は万兩
ありしは初利より少く少くし年々世の人借く
取らざるありし物なり 東照宮御治世に
其の七年に及んで天運は所ありしは
感しつる色に及りありし 宣山一時に
めて金銀を生むに事なくの故に
た子利をばうむこれをして云
しつと津是くいのあを我々の
銀と取むべきありし年より
こを又我々の金銀も少くし
こありしは皆是 東照宮に
くを宣山七年に及んで海軍
二年に及んで少くし海軍より
も少く故に我々の金銀は万兩
ありしは初利より少く少くし年々世の人借く
取らざるありし物なり 東照宮御治世に
其の七年に及んで天運は所ありしは
感しつる色に及りありし 宣山一時に
めて金銀を生むに事なくの故に
た子利をばうむこれをして云
しつと津是くいのあを我々の
銀と取むべきありし年より
こを又我々の金銀も少くし
こありしは皆是 東照宮に
くを宣山七年に及んで海軍
二年に及んで少くし海軍より

有馬玄蕃及

本多遠江守

細川主税及

板倉甲斐守

松平土佐守

柳生備前守

松平播磨守

松平山城守

松平但馬守

稻垣大藏

松平伊織

戸田大隅守

松平和泉守

板倉伊予守

内廷主殿及

右廿五日於河部豊後守宅誓詞相誦

宿坊

御徒及衆雲清院

御目付衆月窓院

相間衆佛心院

小十人及衆貞松院

御祐筆衆花養院

醫者衆瑞善院

御出棺道節

半藏門ヨリ内田信濃守屋布前井伊

掃部及屋布服御堀端通ノ永井備後守屋布前上

秋民ノ太捕屋布前服ヨリ小笠原山城守前通龜

井隠岐守前ヨリ新橋京極若校守前通愛宕下牧

野駿河守前松平隠岐守前服ヨリ池田丹波守前

平野右近門照前宇田川町通濱松町ヨリ増上寺

表門ノ道法三十九町

御出棺ノ節御玄關前又ハ増上寺内舍利降候由

出仕ノ覺

一廿日 御三家 松平加賀守 御普代

一廿一日 外様大名

一廿二日 諸蕃及 諸物及 諸役人 寄合等

右之通可有出仕候

明後廿日 御出棺之事候間火之元入念申付候様

御法号 御臺所 天英院殿 一ノ御部屋 法心院
於古免所方 蓮衆院 左京御方 月光院

御法事ノ日限

十一月三日 申尅初夜御法事

同日 万部讀經始

同日 晨朝廻向

御役所佐渡ノ被遣ハ 廿口米分二百人扶持宛賜

阿野勘右衛門 神保新五左衛門

當月七日 仙洞御所ノ近所前撰政殿被爲 召之

當十一歳ノ姫君 入内被仰出候由

御側衆御小姓衆御小納戸衆御側坊主衆何之只今

迄ノ通可相勤旨被仰置由 由去ル十五日掃部頭申

渡ス

一廿六日方角火消被仰付

芝口御門ヨリ 赤坂御門迄 中川内膳正

伊東播磨守

赤坂御門ヨリ 市谷御門迄 藤堂備前守

稻垣大藏

白銀町ヨリ 芝口御門迄 相馬讚岐守

仙石越前守 龜井隱岐守 本多遠江守

白銀町ヨリ 昌平橋迄 細川熊次郎

板倉甲斐守 佐竹壹岐守

昌平橋ヨリ 市谷御門迄 石川石之次 堀敦貞

出仕廿七日 固持四岳以上

廿八日 惣出仕 廿九日 外様万石以上

晦日 御三家松平加賀守御普代衆日嫡子詰衆並

一十一月一日惣出仕
一二日諸番及諸物及諸役人寄合等
於増上寺御法事

二日御葬送酉刻大方大ヨリ 御出棺

三日申刻初夜御法事

四日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部

初七日 四日未中尅大呪供養 申上刻初夜

五日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部

二七日 五日未上尅日中法要 申上刻初夜

三七日 六日寅上刻晨朝 卯中刻施我鬼

辰中刻讀經千部 申上刻初夜

七日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部

四七日 七日未上刻行得 申中刻初夜

八日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部

五七日 八日午上刻頒寫 申上刻初夜

九日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部 申上刻初夜

十日寅上刻晨朝 卯中刻續經千部

六七日 十日未上刻散花供養 申上尅初夜

十一日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部

七七日 十一日午中刻法問 申上刻初夜

百々日 十一日午中刻四ヶ法要 申上刻初夜

十二日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部 申上刻初夜

十三日寅上刻晨朝 卯中刻讀經千部

都合万部 十三日申上刻初夜 御飯寮御法事

十四日寅上刻晨朝 初上御忌日

勅使 久我内府 龜井隱岐守

仙洞使 中院大納言 六右伊賀守

女院使 小倉宰相 大田原飛騨守

宣命使 女納言 溝口伯耆守 代南部遠江守

来春長昌院殿御法會万部之由廿中御法事二八初

于卜云去十五日御法事奉行大久保加賀守兼之

参詣之面之日限之覺

十一月四日 御三家 兼松平加賀守参詣可被在候

事

五日 諸大名 一万石以上ノ殿并嫡子可為参詣事

六日 七日 高家殿 諸殿 奏者 番殿 同嫡子 諸殿 並同

嫡子 番及 殿 芙蓉 間御役人 中奥 殿 兩日ノ内 一度

可為参詣事

八日 九日 布衣以上ノ諸役人 醫師 兩日ノ内 一度

可為参詣事

十日 寄合 殿 可為参詣事

十一日 十二日 十三日 諸御番 殿 小役人 三日之内

一度可為参詣事

右 御六ツ内ノ御 御年所ノ御 御侍ノ御 御八 御無四

御諸太夫ハ 将衣布衣ノ御 御之 御法服 御装束

御衣ハ 七條 御之 御乃 御侍 御馬 御二 御勢 御表門ハ

御年所ノ御 御所 御本ノ御 御表門ハ 七條 御川 御侍

御御 御石門ノ御 御御 御御 御御 御御

是

表門 表門ノ御 御内ノ御 御右ノ御 御左ノ御 御御 御御

御御 御一人 御後 御十人 御御 御御 御御 御御

いふあるていふの裏抄のうさうはうは色之け
布又その一切侍の之儀多岐有て西くハうの
断所よりいふ

御香奠献上之覺

- 一 白銀五十枚 六十万石以上
- 一 同三十枚 廿五万石ヨリ 五十九万石迄
- 一 同二十枚 十五万石ヨリ 廿四万九千石迄
- 一 同十枚 十万石ヨリ 十四万九千石迄
- 一 同五枚 五万石ヨリ 九万九千石迄
- 一 同三枚 一万石ヨリ 四万九千石迄
- 一 同十枚 卅万石以上ノ嫡子同隠居
- 一 同五枚 十万石以上ノ嫡子同隠居
- 一 同一枚二枚 一万石以下ノ面々

免

- 一 一万石以上ノ西く 御香奠献上ノ使者磨半目
半務よりいふ時より九つと 内裏の色は尺紙
之方丈ノ有てお細く申
- 一 西く西く供も磨半目半務より九つ時より
ハツ時より内裏の通より尺紙方丈よりお細く
申
- 一 存る色うと勅えの御座る御座る 西く西く
と

所居半中務礼之序

- 侍従以上 埋國ノ内下ヨリ一疊目
- 四品 埋國ノ内上ヨリ一疊目
- 諸太夫 同上ヨリ二疊目

布衣 同上ヨリ 三疊目
毎官 同上ヨリ 四疊目

普請八来儿 四日ヨリ 御免ノ間 可被相觸候以上

十一月朔日

出仕之覺

三日 惣出仕

四日 高家歿 誥歿 奏者 番歿 日 嫡子 誥歿 並

五日 諸番 及 諸物 及 諸役人 寄合等

六日 不及出仕

七日 御三家 松平 加賀守 御普代歿

去廿六日 御代替之御用 被仰付

奥御祐筆 服部源八 小池与左衛門

来年始御作法 并可和知旨 仰付

奥所祐筆 馬場木工之介 敬高 孫太夫

十月廿五日 方角出清、波々書

一 出火のり 召寄と 仰付 仰付 仰付 仰付

一 居屋敷へ 風前 御歿 又ハ 召寄と 仰付 仰付

外及 居屋敷 御歿 召寄と 仰付 仰付

御風 御歿 仰付 仰付

一 御召 御召 御召 又ハ 他御召 仰付 仰付

御召 御召 御召 御召 御召 御召 御召

一 古き 場を 込合 仰付 召寄と 仰付 仰付

以 備考 仰付 仰付 出清 中 仰付 仰付

中

一 古き 御召 仰付 仰付 仰付 仰付 仰付

十一日 夜西久保出火 出火 新九郎子 右井少左衛門

一二日 夜西久保出火 出火 新九郎子 右井少左衛門

日夜 延年祐元 命表 出火

先月 晦日 夜 踏河 臺 富永 出火

青木 久之介 頼火

雨宮 勘兵衛 御代官 所武 列入 間部 上 神村 権兵衛 下

申 百姓 自分ノ 畑 一 午房 あり 参候 知 根 深 午房 有

之 付 三天 程 あり 候 八 幅 一寸 二 五寸 ノ 板 金 十

四 枚 堀 出 又 一 枚 三 十八 又 ヲリ 四 十 又 追 惣 目 五 百

四 十 五 六 又 有 之 慶 長 元 年 卜 彫 付 了 日 廿 八 日 勘

兵 衛 権 兵 衛 ヲ 召 連 評 定 所 へ 罷 出 後 藤 庄 三 郎 立 合

上 古 金 二 丁 有 之 卜 申 上 故 板 金 公 儀 へ 上 り 為 代

権 兵 衛 二 金 二 百 兩 賜 之

増上 寺 役 者 百 之 御 佛 殿 料 千 三 百 七 十 石 御 寄 附 ノ

由 被 仰 渡

一十日 公家 致 到 著 上 使 阿 部 豊 後 守 織 田 能 登 守

御 代 替 御 礼 ノ 節 御 三 家 并 国 持 衆 真 御 太 刀 可 献 由

出 仕 之 覺

十一月 十三日 諸 番 及 諸 物 及 諸 役 人 寄 合 等

十四日 不 及 出 仕 十五日 惣 出 仕

十六日 不 及 出 仕 十七日 同 前

十八日 御 三 家 松 平 加 賀 守 溜 詰 御 譜 代 衆

来 年 二 月 於 上 野 長 昌 院 殿 御 遠 忌 御 法 事 御 用 衆

寺 社 奉 行 松 平 对 馬 守 本 多 弾 正 次 弼 東 漸 院

大 目 付 松 平 石 見 守

勘 定 奉 行 平 岩 若 狭 守

一十二日 来 二十五日 増上寺へ御香奠可有 献上由
一十三日 紀伊中納言殿 去二日 国元御登駕 今日着

覺

國持衆外様 一方石以上表高家寄合并小普請ノ
面々ハ明後十五日ヨリ さウヤキモ可被申
御普代衆 諸衆並番々諸役人御番衆 さウ至
さウモハ然先延引可有候

但増上寺へ相詰候面々ハさウヤキモハ
毎用ハ

十二月 十三日

一十四日 初忌日 御名代土屋相摸守着座 井上河内守
御三家并御大老以下ノ御役人へ御遺言

大病重日之今日も難凌然別ハ 鎬松申知して

家督ノ後アリハ 改申此迄是也 寛永
来高家為代又代ノ附届奉 奉忍言ノ神恩と不
逆を迫心と一ノ一ノをモハ 宗好して 逆
瑞松更 申 勿とモハ 直と教ノ 御安と是
期ノ一ハ 以所安カ人 申と謀ハ 唯之其也
之類 垂と悉ク家業トモハ 今更ノ 取ノ
也 有モハ 老ノ 多ハ 裁判多と申ハ 以所 改申
二 乃少知也

正徳二年 底十月九日 所 申

之家大老附屬ノ 建致 諸代 差違之 奉 諸役人以下 近
我急ノ 一知と 領

出仕之覺

十一月十九日 諸番及諸物及諸役人寄合等

廿日不及出仕
廿二日不及出仕
廿四日不及出仕

廿一日国持殿四品以上
廿三日外様万石以上

増上寺參詣之覺

十一月十六日 松平加賀守四品以上外様万石以上
十七日 御普代殿高家殿諸殿奏者番衆同嫡子諸
衆並同嫡子
十八日 諸番及諸物及諸役人寄合等法印法眼
右方丈、布衣以上八疊斗目長袴布衣以下八疊
斗目半袴著之可為參詣候
一十五日 公家衆御暇、付奏者番松平備前守高木主
水正月額御免
公家衆御暇 十六日發足

銀五百枚時服十日 上使

阿部豊後守
織田能登守

久我内大臣様

日三百枚時服六日 断

中院前大納言

日二百枚

小倉宰相

日百枚時服立宣命使

平松女納言

日三十枚時服二女内記

平田中務女輔

日二十枚時服二副使

音木雅永

右之外贈經使者不殘御暇白銀時服賜之

増上寺万部之内聽衆人数

- 十一月四日 三千二百七十七人
- 五日 一万千三百人
- 六日 一万九千三十人
- 七日 二万三千七十七人
- 八日 二万千三百人

九日 二万三千四百人

十日 二万五千七百八十人

十一日 二万九千六百十人

十二日 三万二千五百人

十三日 四万人

松平越後守光長 八十八歳迄ノ指料ノ大小被猷

御刀一尺八寸 三奈古家代金三十枚

御眼指一尺 来国卷代金十五枚

御鋸大小共水牛黒塗御紋蔭繪金逸懸

御縁御紋付 御下緒紅

御筭小柄唐木御紋蔭繪 御小刀竹銀薄分三

去九日横田備中守宅へ留守居共招之 御代替御礼

真御太刀猷上可有旨被申渡御方

松平薩广守 松平陸奥守 松平肥後守

松平伊予守 松平越後守 松平澄路守

宗对馬守 松平右屯門督 松平甲斐守

上松氏了太捕 松平安藝守 松平大炊乃

松平丹後守 松平氏了大捕 友堂和泉守

佐竹大膳太支 有馬玄蕃乃 松平土佐守

細川主税乃 松平肥後守 松平出羽守

伊達伊織

御三家へ去七日 御城附へ於殿中豊後守申渡

松平加賀守へ 大目付ヨリ被申達

一十八日増上寺へ諸大名参詣ニ付过堅メ

秋田信濃守 内发主殿乃

十六日 青山下野守 十七日 加茂左膳

一十九日來二月於上野長昌院殿御法事御番

文珠樓 土井固防守 常照院

仁王門 小笠原信濃守 覺成院

中堂表口 牧野讚岐守 本覺院

同裏口 松平兵庫及 明王院

清水口 内田信濃守 等覺院

車坂 松平主馬及 修禪院

屏風坂 本多若狹守 一乘院

新清水口 京極主膳正 養壽院

日御法事中火之番 後堂源五郎

長谷川久三郎 保田内膳

日御用被仰付 御賄方 山田小兵衛

小普請方 川村弥兵衛 加茂源次

御祐筆 首發又右衛門 横山源次 可兒孫四郎

出仕之覺

十一月廿五日 御三家松平如賀守溜詰御普代衆

廿六日 不及出仕 廿七日 不及出仕

廿八日 惣出仕 廿九日 不及出仕

一廿五日 紅葉山御佛殿御手傳 小笠原右近將監

日御用 御作事奉行 柳沢備後守

日斷 小普請方 金井六右衛門 太田伊兵衛

人參座賣買只今迄銀 二丁 調候 向後金子青銅 二丁

取、致、可、申、候

宗对馬守參勤伺、知、公方様薨御之、義朝鮮国、

申遣候ハ、前々ノ通為吊礼驛官可參、間對詰、

上參勤可有由

高野山学侶龍光院後位量壽院後住被仰付

御代替二月日光極月十七日御名代 松平肥後守

同日廿日御名代 青山下野守 代板倉近江守

京都一金十五枚時服 三中条山城守代前田伊豆守

同日伊勢一 長次壹岐守代京極大膳太夫

一廿九日 御遺物被遣

御服差 栗田二百枚 達部墨跡 上使加尾張殿

御服指 栗田二百枚 大燈墨跡 上使人紀伊殿

御服差 栗田百五十枚 上使水野監物 相水戸殿

御服差 栗田百五十枚 上使水野監物 松平加賀守

同日 栗田百五十枚 上使日人 同若狹守

御刀 近景代金 於御殿并領 松平兵了太輔

御服差 兼光代金 同日新 同主税及

御屏風 墨繪仙人 上使土屋相摸守 准后御方

源氏物語 香磁御香炉 天英院様

源氏物語 十種香管 月光院殿

源氏物語 筆御壺 田中 瑞春院殿

千載集 為定筆御壺 養仙院殿

古今集 雅親筆御壺 松姫君

古今集 為美筆御壺 姬君

歌仙手鑑 公家無寄合書 繪探信筆 美代姫君

源氏物語 御料帛硯 法心院殿

源氏物語 御文臺硯 蓮葉院殿

御臺薄雲 壽光院殿

掛物布袋 點菴筆 井伊掃部及

同寒山十德繪讚 土屋相摸守

日山水 笈隆筆

秋元但馬守

日断

大久保加賀守

日断

井上河内守

日断

阿部豊後守

馬繪 讚箇翁居敬

間部越前守

布袋繪 華翁筆 癡絶筆

本多中務太捕

布袋繪 梁階筆

久世大和守

山水

水野監物

日断

鳥居伊賀守

日断

大久保長門守

不思議之考書

權現様

文昭院殿

壬寅年御誕生

慶長六年

宝永六年

御治世四年

元和二年辰

正徳二辰年

御他界

觀智国師

祐天大僧正

各引導七十六歳

富田大中寺後住

芝泉岳寺於柳間被仰付

一 明朝日惣出仕有之此以後不及出仕以上

十一月廿九日

御代替之御礼ニ付

正月一日日二日日三日出仕ノ分ハ一日ニ登城

右御太刀馬代可有御礼候日限ハ追テ可相達ハ但

真御太刀献上ノ事可為七年之通ハ尤先達テ相觸

候通可被心得

一 侍従以上直垂四品諸太吏ハ将衣布衣面々モ装束

毎官之輩ハ長袴又ハ素袍可有着用

一 万石以上知少病氣或ハ在国在所之面々ハ名代

一 来ル五日朝 御中陰明ニ付 四品十方石以上
 面ニ在玉立取ルニ御看ヨク献上ハ御看ニ取ハ
 何マテモ莫ク貝類ニ苦旨大目付中ノ事ヲ述
 一天英院様ハ 白銀三十枚箱者一種三十方石以上
 同廿枚同形十方石以上 同十枚同形五方石以上
 同五枚同形一上方石以上 同五枚同形十方石以上
 嫡子同隠居
 一月光院様ハ 白銀二十枚 三十方石以上
 同十枚十方石以上 同五枚五方石以上
 同三枚一上方石以上
 右ニ通ニ九迄ハ使者ヨク差上ル但日限ニ依ハ
 述ラズ申述ル
 十二月

一十二月 一日夜下谷火事増火消

松平伊豆守 峰須賀甚彈守 龜井隠岐守
 相良近江守 安部拱津守

一二日ノ月三日ヨリハ光ツヨク内ニ星入後ニハ

月ノ下ニ星付月ノ光リヨリ星ノ光ツヨク候

一廿日 芝神明前火事増火消

小笠原山城守 龜井隠岐守 永井備後守
 井伊兵了少輔 鎬嶋和泉守

一六日 從四位下中將 松平肥後守

右依御遺言被 仰付之日光ハ御暇賜リ来ル十
 三日 登足

青山下野守御暇賜之来ル 十二日 登足

長沢左岐守御暇金十枚時版三羽織賜之

溜ノ間家督御礼

金三十枚時服二十

時服十金馬代

金

繼目御礼 金十枚時服五

金五枚時服三

参勤 金馬代紗綾廿卷

銀馬代時服三

半年替参府箱者 稻葉丹後守

安部撰津守 保科兵尸女傭

竹ノ間駿府加番帰 羽織三銀馬代 土方丹後守

馬糧三銀馬代 一柳主税

雨鞍覆三銀馬代 石川藏人

松平因幡守

松平敬中守

相良近江守

大村伊勢守

酒井右近

龜井隱岐守

小糸遠江守

内友山城守

内田信濃守

内田信濃守

土方丹後守

右御通掛御目見

紀伊殿家来時服三銀馬代 水野安房守 三浦遠江守

松平因幡守家来銀馬代 久徳隼人 吉村權左衛門

隱居献上 御刀守家代金 御臺 松平越中守

天英院殿 古今集傳法 臨宗香筆

日断 御刀 延壽固資代 金二十枚 可人 相良志广守

遺物 御刀 吉岡一文字代金 十三枚 酒井備後守

御刀 備前五光代 大村筑後守

小十人番入 松前伊豆守支配 七郎右 柴山次郎右衛門

清心院殿御用人 諏訪庄兵部 跡御用達 玉田忠四郎

同御用達 忠四郎跡御待 無ヨリ 竹内吉左衛門

上野長昌院殿料百石増被遣由役者靈山院被申

渡

五山惣祿被仰付

金地院

一十二日昨日初

御對顔 付御登城

水戸中納言殿

紀伊中納言殿

昨日初 御表

出御 付御三家ヨリ 御樽者被

獻之

二万石御加増

松平兵部太輔 敬知

千七百石御加増都合三千石

太田内記

二千石御加増都合三千石

勝田帶力

新規千石

寄合帶刀甥

同左京

同五百石

同 同

同頼母

新規二百人扶持 帶刀養父

月光院 同玄哲

右衛遺言 依于賜之

御病氣為御尋御看一種被遣

上使大久保長門守

尾張中納言殿

林百助月並人講尺有之

一十五日惣出仕有之尾張殿水戸殿病氣 依于無登

城

被為百官位被仰付歟

女將

松平左京大夫

從四位下侍從 尾張殿舍方

松平八三郎 改大隅守

同断

同断

同喜子之進 成安房守

同断

肥後守嫡子

松平十五郎 改大膳太

諸大夫被仰付

堀敦貞 左京進

稻垣大藏 信濃守

加茂左膳和泉守

松平主馬 敦貞佐

松平内記 对驥守正

水野伊織 肥前守 嫡

伊勢平八郎

御普請奉行 改伊勢守

布衣役人廿一人被仰付

吉田橋御普請御手傳

秋田信濃守

松平宮内女捕頭ノ通和泉守才小三郎養子被仰付

尾張殿願ノ通諸大夫被仰付 家司内部縫殿

明細書御認来ル 十五日前ニシテ差出ル判案紙之

以上

十二月五日 松平石見守

明後十八日 所代替所礼有之間先迄テ 折符、至

ウケ光 城

十二月十六日

所代替所礼

来ル 十八日 正月三日 去付、一日 光城所礼

多クハ 詔ノ旨ニ依テ 御手傳ニ 仰付

一 掛五ツ付 御手傳

一 万石以上 詔ノ旨ニ 依テ 御手傳 又ハ 御手傳

ニ 依テ 御手傳 又ハ 御手傳 十九日 御手傳

御手傳

一 来ル 十九日 廿一日 廿二日 迄 御手傳 御手傳

御手傳

一 来ル 御手傳 又ハ 御手傳 御手傳 御手傳

御手傳

一 万石以上 詔ノ旨ニ 依テ 御手傳 御手傳

御手傳 十九日 御手傳 御手傳 御手傳

御手傳

御手傳

御手傳

十二月

是

一 幕多し為後依拂給及 御中誠意多中務左輔若年
 幕中くしお誠心致廿八日前揚子以是日合意
 合意、うとま
 一 年久ハ二百十名七目と一白右何し、今合
 一 揚子以是日とま
 一 用し
 一 支給、何しうとま、一、無善所人、誠人、考し、
 乃何前ハ
 一 大前、お福、色付、之、大勢、之、所、可、以、致
 以、之

十二月

今日暮象戲被仰付

一本因坊

仙角 先三目勝

宗印 角落

一 門入 先二目勝

因節

宗紹 勝

手朋 因碩 宗子 宗桂

一 十八日已后刻御表、出御 御代替ノ御礼御規式

書ノ通相済

御白書院御着座元日御白書院御目見四品以上三
 代り、出座御礼大廣間御着座正月二日着座因持
 大名二代り出座御礼日所松ノ間一ノ間二ノ間柳
 間面々英万石以下ノ諸大夫布衣并毎間葦素袍、
 于御礼御白書院帝鑑間正月三日御礼長袴、于御
 礼

一 十九日十萬石以上嫡子隱居ヨリ天英院様へ計御

祝儀指上候筈。候ハ元月光院様ハ毛指上候筈
成候間二九仕廻候ハ中ノ口廊下ハ可差上由
十九日廿一日廿二日ノ内為御祝儀何毛老中可被
廻候事

在国在所ヨリ御側衆ノ書通ハ前々ノ通兩人ハ連
紙一通送物ハ御側衆ノ通 三枝撰津守

久貝因幡守

坂部安次郎知少ニテ先年病死跡目無之ニ付名

跡願ノ通赦懐ニ附候先祖御奉公仕候者ノ節目

故當五月 嚴右院殿三十三回御忌ニ付名跡相

續可被 仰付候間相忘ノ者ヲ可相伺ノ旨是田新

右重門ハ被 仰渡候

右御法事ニ付被召出十五人扶持被下由被仰渡

淺井久益

一廿二日 碁象戯ノ者御暇拜領物如例

一廿三日

是

一御官位 御名之字之為御祝儀明後廿五日慶斗

目着用惣出仕之事

一右為御祝儀廿五日 万石以上廿六日 万石以下何

茂宅ハ可被参夏

但為御祝儀廿八日 前何ノ宅ハ毛指上候筈
名前お送候ハ一々 廿九日 前何ノ宅ハ毛指上候筈
廿八日ノ内御祝儀廿九日 前何ノ宅ハ毛指上候筈

右ノ内御祝儀ニ付被召出十五人扶持被下由被仰渡

三月廿三日

一廿五日惣出仕掃部及老中列座故前守被申渡

御官位 從二位權大納言

御名乗 家継云

右禁裏ヨリ被進之 當今御幼少ニ付 仙河被

深震筆之由

正月一日 五ノ半時揃 二日日前 三日日前

是

一御務忘之為所後依來正月日惣出仕

一在在所後依正月日惣出仕

何處定之

但年所ノ後依正月日惣出仕

一廿九日惣出仕

一廿九日惣出仕

右所込合所ノ由

十二月

一廿八日月次ノ出仕有之御三家御座間ノ御通並溜

詰モ被通其外於席ニ出仕ノ面ニ老中被詰

一廿九日為歲暮御祝及御三家登城其外例年出仕面

ニ被出

関所切手向後可為四判之由 松平主計及

松前伊豆守 大嶋肥前守 大久保淡路守

嚴右院殿御法事ニ付被召出七人杖持宛賜之

河原喜四郎 横井茂左衛門

内後能登守跡式願ノ通嫡藤九病氣ニ付小市郎ノ

被仰付 内後山城守同主殿及

廿六日 松平志广守卒

廿八日安藤駿河守卒
廿九日松平又四郎卒佐渡守子

